

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／海外／株式	
信 託 期 間	無期限	
運 用 方 針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ・ロシア株マザーファンドの受益証券
	ダイワ・ロシア株マザーファンド	ロシアの金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。）ならびにロシアの企業のＤＲ（預託証券）
マザーファンドの運用方法	①主としてロシアの株式（※）の中から、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。 ※株式…ＤＲ、米ドル建ての株式等を含みますので、投資対象国以外の通貨の為替リスクが発生する場合があります。 ②運用にあたっては、以下の点に留意しながら投資することを基本とします。 イ．業績動向、流動性等により銘柄の定量分析を行ない、投資対象銘柄を決定します。 ロ．財務内容、経営陣の評価、セクター内の競争力、バリュエーション、利益成長等に着目し、買付候補銘柄を決定します。 ハ．ポートフォリオの構築においては、業種分散、銘柄分散を考慮します。 ③外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託します。 ④株式の組入比率は、通常の状態では信託財産の純資産総額の80％程度以上に維持することを基本とします。 ⑤保有外貨建資産の為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。	
	組 入 制 限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率 マザーファンドの株式組入上限比率
分 配 方 針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてマザーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

ダイワ・ロシア株ファンド

運用報告書(全体版)
第17期

(決算日 2016年 8 月22日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ・ロシア株ファンド」は、このたび、第17期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目 9 番 1 号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
（営業日の 9：00～17：00）
<http://www.daiwa-am.co.jp/>

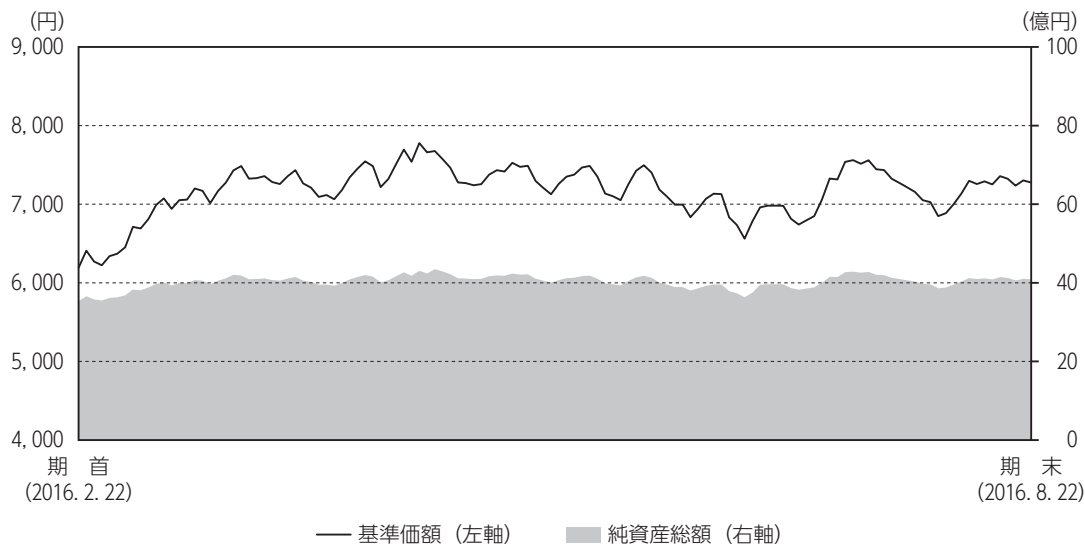
最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			M S C I ロシア10/40指数 (配当込み、円換算)		株 式 組入比率	株 式 先物比率	純資産 総 額
		税込み 分配金	期 中 騰落率	(参考指数)	期 中 騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
13期末(2014年 8 月20日)	8,588	0	4.4	6,934	2.5	93.2	—	5,161
14期末(2015年 2 月20日)	7,914	0	△ 7.8	6,181	△ 10.9	93.1	—	5,023
15期末(2015年 8 月20日)	7,536	0	△ 4.8	5,950	△ 3.7	90.7	—	4,489
16期末(2016年 2 月22日)	6,190	0	△ 17.9	4,990	△ 16.1	90.4	—	3,534
17期末(2016年 8 月22日)	7,276	0	17.5	5,975	19.7	97.2	—	4,088

- (注 1) M S C I ロシア10/40指数 (配当込み、円換算) は、M S C I Inc. の承諾を得て、M S C I ロシア10/40指数 (配当込み、米ドルベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。M S C I ロシア10/40指数 (配当込み、米ドルベース) は、M S C I Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はM S C I Inc. に帰属します。また M S C I Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- (注 2) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
- (注 3) 株式および株式先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
- (注 4) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

《運用経過》

基準価額等の推移について



■ 基準価額・騰落率

期 首：6,190円

期 末：7,276円

騰落率：17.5%

■ 基準価額の主な変動要因

マザーファンドを通じてロシアの株式に投資した結果、主に原油価格の上昇等を受けてロシア株式市況が堅調に推移したことにより、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ・ロシア株ファンド

年 月 日	基 準 価 額		MSCIロシア10/40指数 (配当込み、円換算)		株 式 組入比率	株 式 先物比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首)2016年 2 月22日	円 6,190	% —	4,990	% —	% 90.4	% —
2 月末	6,370	2.9	5,213	4.5	96.9	—
3 月末	7,356	18.8	5,994	20.1	96.4	—
4 月末	7,574	22.4	6,083	21.9	95.7	—
5 月末	7,487	21.0	6,103	22.3	93.9	—
6 月末	6,959	12.4	5,664	13.5	88.3	—
7 月末	7,156	15.6	5,922	18.7	91.3	—
(期末)2016年 8 月22日	7,276	17.5	5,975	19.7	97.2	—

(注) 騰落率は期首比。

投資環境について

○ロシア株式市況

ロシア株式市況は、期首から2016年4月下旬にかけて、原油価格が回復に転じたことやロシアの一部経済指標に改善の兆しが出てきたこと、米国の利上げ観測後退に伴う新興国市場に対する投資家心理が改善したことなどが支援材料となり、上昇基調となりました。その後、英国のEU（欧州連合）離脱をめぐる混乱や原油価格の下落などがマイナス要因となり、7月上旬にかけては上値の重い展開が続きました。期末にかけては、英国のEU離脱をめぐる混乱から落ち着きを取り戻してきたこと、9月のOPEC（石油輸出国機構）非公式会合で生産量についての協議が行なわれるとの見方が台頭し原油価格が反発に転じたこと、ロシア軍機がトルコ軍機に撃墜された事件後ほぼ断絶していた両国関係が首脳会談をきっかけに改善される期待が高まったこと、新興国市場の中でも割安な株価バリュエーションであることなどが支援材料となり、上昇基調となりました。

○為替相場

対円で見たロシア・ルーブルは、原油価格の上昇やロシアの経済指標の改善などを背景に、期首から2016年4月下旬にかけて上昇基調となりました。その後、英国のEU離脱をめぐる混乱、金融政策決定会合で日銀が追加緩和を見送ったこと、ロシア中央銀行が政策金利を引き下げたことなどが下落要因となりましたが、7月の参議院選挙での与党勝利を受けて日本政府の経済対策への期待が高まったことが上昇要因となり、7月中旬にかけてはボックス圏での推移となりました。プーチン大統領が足元のルーブル高に対して懸念を示したこと、7月末の日銀の金融政策決定会合において決定された内容が期待したほどではなかったことなどを受けて、8月上旬にかけて下落しましたが、期末にかけてはやや値を戻す展開となりました。

前期における「今後の運用方針」

○当ファンド

「ダイワ・ロシア株マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

○ダイワ・ロシア株マザーファンド

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。原油価格が低水準にあるものの、相対的に安定的なキャッシュフローが見込まれることに加え、ルーブル安米ドル高の恩恵が期待される銘柄を中心としたエネルギーセクターにも注目しています。一方で、公益事業セクターについては、慎重な見方をしています。株式組入比率については、テクニカルな株価反発等の可能性も勘案し、機動的に対応していきます。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

ポートフォリオについて

○当ファンド

「ダイワ・ロシア株マザーファンド」の受益証券へ投資しました。

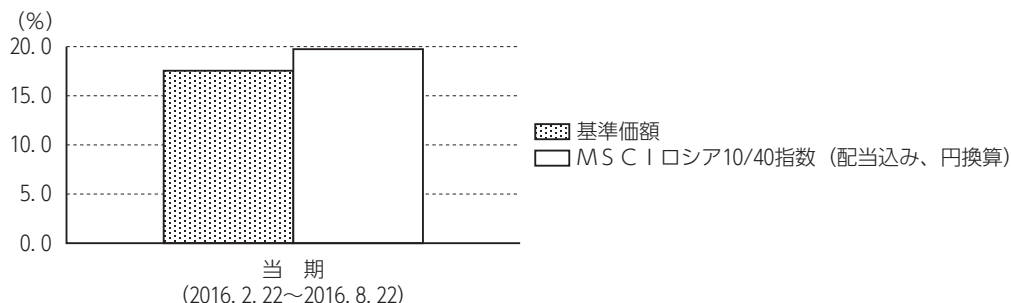
○ダイワ・ロシア株マザーファンド

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託しております。株式組入比率は、85%程度以上を維持しながら、市場環境に応じて機動的に変動させました。業種では、原油価格が回復基調となる中、相対的に安定したキャッシュフローが見込まれる銘柄を中心としたエネルギー、割安な株価バリュエーションに加え今後の緩やかな貸出需要の回復期待や貸倒引当金の低下観測等が支援材料となった金融セクターなどを高位としました。個別銘柄では、MAGNIT PJSC（生活必需品）、SBERBANK OF RUSSIA PJSC（金融）、NOVATEK（エネルギー）、MMC NORILSK NICKEL PJSC（素材）などを組入上位としました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2016年2月23日 ～2016年8月22日	
当期分配金（税込み）	(円)	—
対基準価額比率	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	963

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

《今後の運用方針》

○当ファンド

「ダイワ・ロシア株マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

○ダイワ・ロシア株マザーファンド

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。原油価格の回復が支援材料となる中、安定的なキャッシュフローが見込まれる銘柄を中心としたエネルギー、割安な株価バリュエーション等が支援材料となる素材、金融セクターなどに注目しています。ただし、素材セクターへの影響が大きい商品市況の動向や、政府が財政赤字削減のためにエネルギー関連企業に対する増税を課す可能性については注意が必要と考えています。株式組入比率については、原油価格、世界的な経済、政治、金融市場の動向などをにらみながら、機動的に対応していきます。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2016. 2. 23～2016. 8. 22)		
	金 額	比 率	
信託報酬	65円	0. 902%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は7, 178円です。
(投信会社)	(31)	(0. 430)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(31)	(0. 430)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(3)	(0. 043)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	37	0. 519	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(37)	(0. 519)	
有価証券取引税	0	0. 000	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0. 000)	
その他費用	11	0. 154	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(9)	(0. 128)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0. 003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(2)	(0. 024)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	113	1. 575	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

ダイワ・ロシア株ファンド

■売買および取引の状況
親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2016年 2月23日から2016年 8月22日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・ロシア株マザーファンド	234,033	195,000	378,258	312,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2016年 2月23日から2016年 8月22日まで)

項 目	当 期
	ダイワ・ロシア株マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	10,589,244千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	3,811,529千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	2.77

(注 1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注 2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・ロシア株マザーファンド	5,000,058	4,855,834	4,056,078

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年 8月22日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ・ロシア株マザーファンド	4,056,078	97.9
コール・ローン等、その他	85,677	2.1
投資信託財産総額	4,141,756	100.0

(注 1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注 2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、8月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝100.63円です。

(注 3) ダイワ・ロシア株マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(4,065,786千円)の投資信託財産総額(4,110,893千円)に対する比率は、98.9%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年 8月22日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	4,141,756,220円
コール・ローン等	65,677,809
ダイワ・ロシア株マザーファンド	4,056,078,411
(評価額)	
未収入金	20,000,000
(B) 負債	53,497,662
未払解約金	16,942,863
未払信託報酬	36,446,423
その他未払費用	108,376
(C) 純資産総額 (A－B)	4,088,258,558
元本	5,618,461,336
次期繰越損益金	△ 1,530,202,778
(D) 受益権総口数	5,618,461,336口
1万口当り基準価額 (C/D)	7,276円

* 期首における元本額は5,709,443,791円、当期中における追加設定元本額は419,235,503円、同解約元本額は510,217,958円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は7,276円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は1,530,202,778円です。

■損益の状況

当期 自2016年 2月23日 至2016年 8月22日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 8,135円
受取利息	217
支払利息	△ 8,352
(B) 有価証券売買損益	607,327,110
売買益	658,067,677
売買損	△ 50,740,567
(C) 信託報酬等	△ 36,554,884
(D) 当期損益金 (A + B + C)	570,764,091
(E) 前期繰越損益金	△ 1,166,857,242
(F) 追加信託差損益金	△ 934,109,627
(配当等相当額)	(185,806,036)
(売買損益相当額)	(△ 1,119,915,663)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 1,530,202,778
次期繰越損益金 (G)	△ 1,530,202,778
追加信託差損益金	△ 934,109,627
(配当等相当額)	(185,806,036)
(売買損益相当額)	(△ 1,119,915,663)
分配準備積立金	355,730,592
繰越損益金	△ 951,823,743

■収益分配金の計算過程 (総額)

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	91,911,029円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	185,806,036
(d) 分配準備積立金	263,819,563
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	541,536,628
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	541,536,628
(h) 受益権総口数	5,618,461,336口

- (注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
- (注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
- (注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程 (総額)」の表をご参照ください。
- (注4) 投資信託財産 (親投資信託) の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用 : 7,995,643円 (未監査)

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA (ニーサ)」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

ダイワ・ロシア株マザーファンド

運用報告書 第17期（決算日 2016年 8 月22日）

（計算期間 2016年 2 月23日～2016年 8 月22日）

ダイワ・ロシア株マザーファンドの第17期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運 用 方 針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	ロシアの金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。）ならびにロシアの企業のD R（預託証券）
運 用 方 法	①主としてロシアの株式（※）の中から、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。 ※株式…D R、米ドル建ての株式等を含みますので、投資対象国以外の通貨の為替リスクが発生する場合があります。 ②運用にあたっては、以下の点に留意しながら投資することを基本とします。 イ、業績動向、流動性等により銘柄の定量分析を行ない、投資対象銘柄を決定します。 ロ、財務内容、経営陣の評価、セクター内の競争力、バリュエーション、利益成長等に着目し、買付候補銘柄を決定します。 ハ、ポートフォリオの構築においては、業種分散、銘柄分散を考慮します。 ③外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託します。 ④株式の組入比率は、通常の状態で信託財産の純資産総額の80％程度以上に維持することを基本とします。 ⑤保有外貨建資産の為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。
株式組入制限	無制限

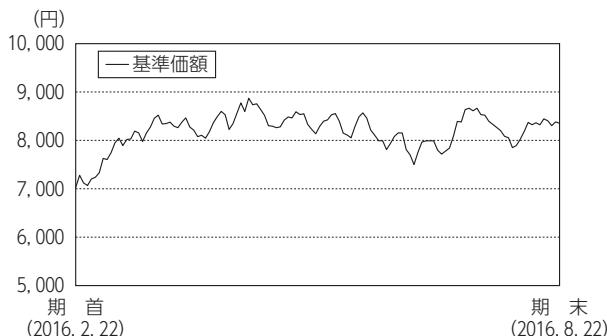
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額と市況の推移



年 月 日	基 準 価 額		MSCIロシア10/40指数 (配当込み、円換算)		株 式 組入比率	株 式 先物比率
	円	騰落率 %	(参考指数)	騰落率 %		
(期首) 2016年 2月22日	7,029	—	4,990	—	90.9	—
2月末	7,237	3.0	5,213	4.5	97.5	—
3月末	8,377	19.2	5,994	20.1	96.9	—
4月末	8,639	22.9	6,083	21.9	96.3	—
5月末	8,554	21.7	6,103	22.3	94.4	—
6月末	7,965	13.3	5,664	13.5	88.8	—
7月末	8,203	16.7	5,922	18.7	91.8	—
(期末) 2016年 8月22日	8,353	18.8	5,975	19.7	98.0	—

(注1) MSCIロシア10/40指数 (配当込み、円換算) は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCIロシア10/40指数 (配当込み、米ドルベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。MSCIロシア10/40指数 (配当込み、米ドルベース) は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注2) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注3) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：7,029円 期末：8,353円 騰落率：18.8%

【基準価額の主な変動要因】

当期の基準価額は、主に原油価格の上昇等を受けてロシア株式市況が堅調に推移したことにより、上昇しました。

◆投資環境について

○ロシア株式市況

ロシア株式市況は、期首から2016年4月下旬にかけて、原油価格が回復に転じたことやロシアの一部経済指標に改善の兆しが出てきたこと、米国の利上げ観測後退に伴う新興国市場に対する投資家心理が改善したことなどが支援材料となり、上昇基調となりました。その後、英国のEU (欧州連合) 離脱をめぐる混乱や原油価格の下落などがマイナス要因となり、7月上旬にかけては上値の重い展開が続きました。期末にかけては、英国のEU離脱をめぐる混乱から落ち着きを取り戻してきたこと、9月のOPEC (石油輸出国機構) 非公式会合で生産量についての協議が行なわれるとの見方が台頭し原油価格が反発に転じたこと、ロシア軍機がトルコ軍機に撃墜された事件後ほぼ断絶していた両国関係が首脳会談をきっかけに改善される期待が高まったこと、新興国市場の中でも割安な株価バリュエーションであることなどが支援材料となり、上昇基調となりました。

○為替相場

対円を見たロシア・ルーブルは、原油価格の上昇やロシアの経済指標の改善などを背景に、期首から2016年4月下旬にかけて上昇基調となりました。その後、英国のEU離脱をめぐる混乱、金融政策決定会合で日銀が追加緩和を見送ったこと、ロシア中央銀行が政策金利を引き下げたことなどが下落要因となりましたが、7月の参議院選挙での与党勝利を受けて日本政府の経済対策への期待が高まったことが上昇要因となり、7月中旬にかけてはボックス圏での推移となりました。プーチン大統領が足元のルーブル高に対して懸念を示したこと、7月末の日銀の金融政策決定会合において決定された内容が期待したほどではなかったことなどを受けて、8月上旬にかけて下落しましたが、期末にかけてはやや値を戻す展開となりました。

◆前期における「今後の運用方針」

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。原油価格が低水準にあるものの、相対的に安定的なキャッシュフローが見込まれることに加え、ルーブル安米ドル高の恩恵が期待される銘柄を中心としたエネルギーセクターにも注目しています。一方で、公益事業セクターについては、慎重な見方をしています。株式組入比率については、テクニカルな株価反発等の可能性も勘案し、機動的に対応していきます。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

◆ポートフォリオについて

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託しております。株式組入比率は、85%程度以上を維持しながら、市場環境に応じて機動的に変動させました。業種では、原油価格が回復基調となる中、相対的に安定したキャッシュフローが見込まれる銘柄を中心としたエネルギー、割安な株価バリュエーションに加え今後の緩やかな貸出需要の回復期待や貸倒引当金の低下観測等が支援材料となった金融セクターなどを高位としました。個別銘柄では、MAGNIT PJSC (生活必需品)、SBERBANK OF RUSSIA PJSC (金融)、NOVATEK (エネルギー)、MMC NORILSK NICKEL PJSC (素材) などを組入上位としました。

ダイワ・ロシア株マザーファンド

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは、運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当期の参考指数（MSCIロシア10/40指数（配当込み、円換算））の騰落率は19.7%となりました。一方、当ファンドの騰落率は18.8%となりました。

《今後の運用方針》

当ファンドは、豊富な天然資源の強みを背景に、国内需要の拡大など産業構造の変化が進むロシア経済において、成長が期待される企業に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。原油価格の回復が支援材料となる中、安定的なキャッシュフローが見込まれる銘柄を中心としたエネルギー、割安な株価バリュエーション等が支援材料となる素材、金融セクターなどに注目しています。ただし、素材セクターへの影響が大きい商品市況の動向や、政府が財政赤字削減のためにエネルギー関連企業に対する増税を課す可能性については注意が必要と考えています。株式組入比率については、原油価格、世界的な経済、政治、金融市場の動向などをにらみながら、機動的に対応していきます。

外貨建資産の運用にあたっては、デカ・インベストメント社に運用の指図にかかる権限を委託し、今後の運用を行なってまいります。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (株式)	43円 (43)
有価証券取引税 (株式)	0 (0)
その他費用 (保管費用) (その他)	12 (11) (2)
合 計	55

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出方法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

株 式

(2016年2月23日から2016年8月22日まで)

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外国	ロシア	百株 3,548,055 ()	千アメリカ・ドル 49,926 ()	百株 1,975,473.99	千アメリカ・ドル 47,993

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) ()内は株式分割、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

株 式

(2016年2月23日から2016年8月22日まで)

当 期				期 付			
買 付				売 付			
銘 柄	株 数	金 額	平均単価	銘 柄	株 数	金 額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
ROSNEFT PJSC-REG S GDR (ロシア)	1,395	712,466	510	ROSNEFT PJSC-REG S GDR (ロシア)	1,070	541,791	506
GAZPROM PAO -SPON ADR (ロシア)	1,050	509,062	484	GAZPROM PAO -SPON ADR (ロシア)	975	463,299	475
MMC NORILSK NICKEL PJSC-ADR (ロシア)	332.5	494,954	1,488	SBERBANK OF RUSSIA PJSC (ロシア)	2,250	433,834	192
RUSHYDRO PJSC (ロシア)	321,000	367,517	1	AEROFLOT PJSC (ロシア)	3,150	400,519	127
MAGNIT PJSC-SPON GDR REGS (ロシア)	90.5	362,695	4,007	GAZPROM PJSC (ロシア)	1,475	343,056	232
SBERBANK OF RUSSIA PJSC (ロシア)	1,600	305,192	190	MMC NORILSK NICKEL PJSC-ADR (ロシア)	222.5	317,851	1,428
NOVATEK OAO-SPONS GDR REG S (ロシア)	25	266,259	10,650	LUKOIL PJSC-SPON ADR (ロシア)	60	262,186	4,369
MEGAFON-REG S GDR (ロシア)	210	251,824	1,199	ROSNEFT PJSC (ロシア)	450	242,698	539
LUKOIL PJSC-SPON ADR (ロシア)	55	240,707	4,376	TATNEFT PJSC (ロシア)	427.5	229,487	536
AEROFLOT PJSC (ロシア)	2,132	233,320	109	MEGAFON-REG S GDR (ロシア)	155.5	195,351	1,256

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■組入資産明細表
外国株式

銘柄		期首	当	期末		業種等
		株数	株数	評価額		
				外貨建金額	邦貨換算金額	
(ロシア)		百株	百株	千アメリカ・ドル	千円	
MOBILE TELESYSTEMS-SP ADR		1,880	1,880	1,613	162,320	電気通信サービス
MMC NORILSK NICKEL PJSC-ADR		850	1,950	3,061	308,078	素材
MAGNIT PJSC-SPON GDR REGS		800	1,255	5,058	509,077	生活必需品
MEGAFON-REG S GDR		1,255	1,800	1,881	189,285	電気通信サービス
SBERBANK PJSC -SPONSORED ADR		200	1,000	867	87,246	金融
NOVATEK OAO-SPONS GDR REG S		182.5	300	3,270	329,060	エネルギー
LUKOIL PJSC-SPON ADR		250	200	924	92,982	エネルギー
ROSNEFT PJSC-REG S GDR		1,750	5,000	2,730	274,719	エネルギー
GAZPROM PAO -SPON ADR		—	750	317	31,913	エネルギー
PHOSAGRO OAO-GDR REG S		—	550	735	73,998	素材
INTER RAO UES PJSC		—	225,000	926	93,193	公益事業
SBERBANK-PREFERENCE		—	7,500	1,158	116,603	金融
SURGUTNEFTEGAS-PREFERENCE		15,000	—	—	—	エネルギー
ALROSA PJSC		16,000	12,500	1,465	147,433	素材
MOSCOW EXCHANGE MICEX-RTS PJ		13,150	12,800	2,532	254,822	金融
SBERBANK OF RUSSIA PJSC		21,500	15,000	3,198	321,845	金融
TRANSNEFT PJSC		4.55	5.7	1,434	144,366	エネルギー
SEVERSTAL PJSC		1,600	1,450	1,826	183,761	素材
AEROFLOT PJSC		10,180	—	—	—	資本財・サービス
ROSTELECOM PJSC		6,750	6,750	896	90,225	電気通信サービス
TATNEFT PJSC		3,200	—	—	—	エネルギー
SURGUTNEFTEGAS OJSC		14,312.64	—	—	—	エネルギー
GAZPROM PJSC		17,500	6,500	1,396	140,493	エネルギー
ROSNEFT PJSC		3,250	—	—	—	エネルギー
LUKOIL PJSC		650	655	3,031	305,088	エネルギー
RUSHYDRO PJSC		—	1,400,000	1,503	151,293	公益事業
ファンド合計	株数、金額 銘柄数<比率>	130,264.69 21銘柄	1,702,845.7 21銘柄	39,827	4,007,809 <98.0%>	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) < >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

ダイワ・ロシア株マザーファンド

■投資信託財産の構成

2016年 8 月22日現在		
項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	4, 007, 809	97. 5
コール・ローン等、その他	103, 084	2. 5
投資信託財産総額	4, 110, 893	100. 0

(注 1) 評価額の単位未満は切捨て。
 (注 2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、8 月22日における邦貨換算レートは、1 アメリカ・ドル＝100. 63円です。
 (注 3) 当期末における外貨建純資産 (4, 065, 786千円) の投資信託財産総額 (4, 110, 893千円) に対する比率は、98. 9% です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年 8 月22日現在		
項 目	当 期 末	
(A) 資産	4, 110, 893, 711円	
コール・ローン等	89, 028, 053	
株式 (評価額)	4, 007, 809, 533	
未収配当金	14, 056, 125	
(B) 負債	20, 220, 000	
未払解約金	20, 220, 000	
(C) 純資産総額 (A－B)	4, 090, 673, 711	
元本	4, 897, 238, 102	
次期繰越損益金	△	806, 564, 391
(D) 受益権総口数	4, 897, 238, 102口	
1 万口当り基準価額 (C／D)	8, 353円	

* 期首における元本額は5, 036, 177, 194円、当期中における追加設定元本額は244, 979, 553円、同解約元本額は383, 918, 645円です。
 * 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ・ロシア株ファンド (FOFs 用) (適格機関投資家専用) 25, 959, 469円、ダイワ・ロシア株ファンド4, 855, 834, 325円、ダイワ新興 4 カ国株式ファンド (ダイワ S MA 専用) 15, 444, 308円です。
 * 当期末の計算口数当りの純資産額は8, 353円です。
 * 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は806, 564, 391円です。

■損益の状況

当期 自2016年 2 月23日 至2016年 8 月22日		
項 目	当 期	
(A) 配当等収益	95, 360, 710円	
受取配当金	95, 365, 588	
受取利息	13	
支払利息	△	4, 891
(B) 有価証券売買損益	574, 171, 090	
売買益	1, 036, 073, 760	
売買損	△	461, 902, 670
(C) その他費用	△	6, 190, 580
(D) 当期損益金 (A + B + C)	663, 341, 220	
(E) 前期繰越損益金	△	1, 496, 484, 703
(F) 解約差損益金	67, 368, 645	
(G) 追加信託差損益金	△	40, 789, 553
(H) 合計 (D + E + F + G)	△	806, 564, 391
次期繰越損益金 (H)	△	806, 564, 391

(注 1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
 (注 2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。